

店頭から  
「こんにちば」

第53回

# 薬物乱用の怖さを講義

## 子どもたちの 姿勢にうたれる

町の薬剤師の仕事の1つに、小学校での薬物乱用に関する講義が。おクスリの正しい使い方などについて、お話しするのです。



### 喫煙者の肺の衝撃

薬物乱用の講義では、基本的なことも、お話しします。

例えば、処方されたおクスリでも、町の薬局薬店で買ったおクスリでも、決められた量を、決められた時間にのまないといけないなどです。

そうしたことを、スライドを使って教えていくのです。のむべき量を守らなかつたり、家族に処方されたおクスリをのんでしまつたりする行為も、実は薬物乱用とも教えられます。

アルコールやタバコも、含まれる成分から考えると、薬物といえるでしょう。

そもそも、からだや脳の細胞が発育中の学生が、飲酒や喫煙をすれば、細胞が委縮を

起こし、正常な成長ができなくなってしまうのです。だから、未成年の飲酒・喫煙が禁止されている…。

人体模型に、タバコの煙を注入して、模型の肺がタールでベトトリになる推移を、動画で生徒たちに見せます。

タバコを吸っていた人と、吸っていない人との肺を比べることも。喫煙者の肺は、タールで真っ黒。

この画像は衝撃的です。

### 素直でかいっしょ願

さて、私の出前授業を聴いたお子さんが、うちへ帰って、お父さんに、「害がすごいから、タバコ、やめて!」と、お願いをしたのだとか。すると、お父さんは、急に機嫌が悪くなり、2階へ上がってし

まったそうです。

また、あるお母さんは、タバコを吸うし、お酒ものむので、「どちらもやめてもらいたい」との子どもからの切実な声も。

ともあれ、薬物乱用というと、新聞やテレビを賑わせている危険ドラッグや覚せい剤、マリファナなどが頭に浮かぶことでしょう。実は、入手経路は、ヤクザや麻薬密売人ではなくて、友人や知人など、身近な人が最も多いことも知られます。

それらは隠語で、アンパンとかスピード、ハツパと呼ばれており、危険を感じさせず、むしろ安全だと錯覚してしまふこと。だから、そんな名前を使っている人には決して近づかず、誘われても、キッパ

りと、「ノー」と断る勇氣を持ちましょう。そう、繰り返して、お話ししてきました。

薬物乱用防止教室の翌日には、生徒さん全員から、感想文をいただきました。当然、すべてに目を通します。

「初めて聞いた」とか、「大きくなくても、タバコや、お酒はのまない」との声が圧倒的です。中には、「お父さんや、お母さんに、出前授業で聴いたことを伝えて、やめてもらう」といった素直で、かわい

いと感じる感想文も。全部、誌面で、ご紹介したいほどですが、この子たちが大きくなるころ、「薬物乱用が根絶していればいいなあ」と思っているところです。



宮川薬局 (宮城県仙台市) 代表  
薬学博士・薬剤師  
みやがわとしじ  
宮川季士先生

プロフィール / 1976 (昭和51) 年、東北薬科大学 (現・東北医科薬科大学) 卒業。'78 (同53) 年、同大学大学院修士課程修了。'87 (同62) 年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「お子さんと、しっかり向き合ってください」